

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィズ・ユ-柳井		
○保護者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ R7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	R7年 6月 1日		～ R7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの日々の様子について、保護者と継続的に情報共有を行い、健康や発達状況について共通理解が図れている点が強みです。『HUG』を通じて写真付きで活動内容を伝えていることが、評価につながりました。	日頃からこどもの様子や小さな変化について、保護者と丁寧に伝え合うことを意識して取り組んでいます。連絡アプリ『HUG』を活用し、写真付きでその日の活動内容や様子を伝えることで、通所中の様子が具体的に分かるよう工夫しています。これにより、こどもの健康面や発達状況について、保護者と共通理解を図れるよう努めています。	今後は、保護者との情報共有をさらに充実させるため、連絡アプリでの発信内容や伝え方を工夫し、こどもの成長や変化がより分かりやすく伝わるよう努めています。また、職員間での情報共有や振り返りを継続的に行い、支援内容や関わり方の統一を図ることで、事業所全体としての支援の質の向上を目指します。
2	「放課後等デイサービス支援計画」を基に、支援の目標や内容について保護者へ丁寧に説明を行い、理解と同意を得たうえで支援を実施しています。計画内容の共有を通じて、共通理解の形成に努めています。	放課後等デイサービス支援計画を活用し、支援目標や内容を保護者に丁寧に説明することで、共通理解の形成を図っています。日々の支援の振り返りや職員間の共有を通じて、支援内容の見直しと改善を継続的に行っています。	今後は、放課後等デイサービス支援計画に基づく説明や振り返りの機会を継続的に設け、保護者との共通理解を一層深めてまいります。併せて、職員研修や情報共有体制の強化を行い、専門性の向上と支援内容の充実を図ってまいります。
3	一人ひとりのこどもを丁寧に理解し、発達段階や特性、個々のニーズに応じた専門性の高い支援を提供しています。専門知識を持つ職員が連携し、こどもの成長や可能性を最大限に引き出す支援を行っています。また、保護者との情報共有を大切に、安心して継続的な支援を受けていただける体制を整えています。	こども一人ひとりの特性や発達状況を丁寧に把握するため、日々の観察や記録を大切にしています。また、職員間での情報共有や定期的なケース検討を行い、支援内容の見直しや質の向上に努めています。こどもが安心して過ごせる環境づくりや、成功体験を積み重ねられる支援を意識し、保護者との連携も密に行っています。	今後は、職員の専門性向上を目的とした研修や勉強会を継続的に実施し、支援の質のさらなる向上を図ってまいります。また、保護者との意見交換の機会を増やし、より一層の情報共有と連携強化に努めます。加えて、支援内容の振り返りや評価を定期的に行い、こども一人ひとりにより適した支援が提供できる体制づくりを進めていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	新規開所のため、職員研修については初期段階にあり、計画的・継続的な研修体制が十分に整っていない。	新規開所に伴い、開設準備や日常業務の立ち上げを優先する必要があるため、職員研修に十分な時間と体制を確保できていないことが要因である。	年間研修計画を策定し、内部研修の定期的な実施や外部研修・オンライン研修を活用することで、職員の専門性および支援技術の向上を図る。
2	古民家を活用した事業所であることから、段差等が存在し、利用者の状況によっては移動時の配慮が必要となる点が課題である。	古民家を活用した建物であるため、構造上の制約から段差等が存在し、バリアフリー対応が十分に行えないことが、事業所としての課題の主な要因である。	古民家の構造上の制約を踏まえ、安全対策や見守り体制の強化、動線の工夫を行い、利用者が安心して過ごせる環境づくりに努めていく。
3	健常者との交流の機会が限られており、十分な機会を提供できていない点が課題である。	開所からの期間が短く、地域とのつながりが十分でないことにより、健常者との交流機会が限られていることが主な要因である。	地域行事等への参加や関係機関との連携を進め、利用者が健常者と自然に交流できる機会の創出に努めていく。